

#川越の今

大竹 葉那
榊原 百萌花
清水 曆
松尾 弥佳
南 朱里

(目次)

第一章 どうして川越を調べることになったのか

第二章 コロナ禍の観光の状況、取り組みを市役所に聞いてみた

第三章 川越氷川神社は今どうなっているのか

第四章 川越の小学生の遠足定番、博物館と本丸御殿は

第五章 今後の川越の課題は

付録 食べておいしかったもの、おすすめの観光

第一章 どうして川越を調べるようになったのか

神様はじめました

現地取材から1か月前、残暑が残る9月。私たちが「川越の今」について調べようと考えたのは、私が発した思い付きからだった。

秋草学園短期大学から最も近い観光地であり、私も含め、若い世代の中で人気がある漫画「神様はじめました」の舞台でもあるからだ。いわば若者の聖地である。他のメンバーにとっても親しみやすい場所であり、多面的な魅力のある町……。私たちは「小江戸川越の観光の今」について調べることにした。

私たちは、小江戸川越について調べるために、川越市の観光課、川越氷川神社、本丸後殿に取材することに決めた。そして、実際に小江戸川越へ赴いた。

メンバーは、5人。私と行動を共にするメンバーの1人は、極度の方向音痴であり、何度も来た道と反対方向に帰ろうとして、

「こっちだよ」

とその都度訂正した。慌ただしい現地取材の始まりだった――。

コロナと川越

現在の観光で切っけは切れない問題は、コロナウイルスだ。埼玉県では、累計5682人の陽性者が出ていて、今も増え続けている。

日本全国状況からみても、川越の観光収入などが激減しているのは、容易に推測できた。全国的に外出などが緩和され始めた現在、川越はどうなっているのか。

今後どうしていくのか。私たちは市役所や観光地などにインタビューを行い、その全貌を解き明かしていく。

第二章 コロナ禍の観光の状況、取り組みを市役所に聞いてみた

市役所の回答

川越に行く前に川越市の前知識が必要となり、リサーチを開始した。まずはインターネットで川越市のHPを用いて、私たちがテーマに選んだ「川越の今」というテーマでコロナ対策を中心に情報収集を始めてみた。

調べていくと、外国人向けに「感染予防エチケット(多言語版)」を作成していた他、「越えていこう、川越プロジェクト」というポスタープロジェクトを行っていたことが分かった。HPで大方情報は集まってきたが、もっと詳しく知りたいこともあった。

また、調べたからこそ疑問点もあがってくる。そこで私たちはメールで観光課にいくつか質問を送ることにした。

最初の質問は、コロナ禍以前と以降で観光客と観光収入がどのように変化したのかについてだった。

「今年の観光客数についてまだ具体的なデータを出すことができないため、観光客数及び収入の減少の具体的な数字を出すことができないが、観光案内所利用者数のデータ比較をすると例年より大幅にダウンしていることがわかっており、それと比例して観光客数全体も大幅に減少することは確実だと考えております」(観光課)

また、川越市は取り組みとして中小企業・個人事業主を対象とした「川越市中小企業者事業継続緊急支援金【拡充版】」事業を実施している。非常に多くの申請を頂いている状況を鑑みても、観光の軸となる、伝統的な街並みを構成する小型店舗等への影響はかなり大きいものと推察されているという。

越えていこう、川越

そして私たちが一番気になるのはどうやって感染を防ぐのかということ。回答書によると「川越市の感染症対策は公共施設内において、フロアに消毒液設置、窓口に飛沫防止シート設置、事務机にアクリル板の衝立設置など、建物内でのクラスター発生防止に努めている」とのこと。調べて言ったうえで興味を持った「越えていこう、川越プロジェクト」についてはからHP引用すると「新しい生活様式をとりいれつつ、現状を乗り「越」えるため、「越えていこう、川越」のフレーズを掲げ、市内外へ向けてメッセージを発信していくプロジェクト」と書いてあった。概要は個別オリジナルポスター参加者を募集し、1枚

1000円の個人負担として、経費の一部を川越市、川越商工会議所、小江戸川越観光協会で補助し、参加者は10月8日現在で、459もの申請を貰ったそう。ちなみに現時点ではプロジェクトを行ったことによる具体的な効果や反響は確認できてないという。

事前に調べて学んだ知識と以上の回答を踏まえ、私たちは現地に取材に向かうことにした。

戻りつつある従来の川越

10月21日、私たちは実際に小江戸川越にいた。

「人が多い！」

思わず、声に出してしまった。

外出自粛がゆるやかになり、Gotoキャンペーンが始まっていたからだ。それが今の小江戸川越の印象である。平日なのに若者が多く、友人、カップル、子供連れの姿が目立った。私の眼には、かつての活気を取り戻しているように見える。

実際、私が取材した商店では「確かに人が戻ってきている」と感じているようだ。もともと、川越の町は狭い道が多い。この日は狭い通路ではすれ違うこともままならないくらいの混雑ぶりだった。

一部の店舗では、行列もできていた。

今、インスタグラムで川越をハッシュタグにつけた投稿は、8月から増え続け、テレビ番組でも特集を組まれている。これらの状況を見ても、かなりの観光客が戻ってきていると言えそうだ。

戻ってきているのは嬉しいが、一番厄介な問題なのは、どうやって安全に観光できるかという点だ。

川越にやってくる観光客の主な目的は、食べ歩きだろう。そのため、屋外での観光が多く、密になりにくい環境ではある。

けれども、食べ物を求めて、長い行列ができる店もあり、ソーシャルディスタンスがききんととれているかという疑問だ。

前章で述べた通り、川越市は独自の新しい観光案内など、安全に観光ができるよう対策

もしている。

観光地である、「時の鐘」周辺の商店街で働いている人は、マスク着用のうえ、ビニールシート、アルコール消毒などの対策をとっていた。

キャッシュレス対応の店が増えた

変わっていく川越の観光の中でも、私が目についたのは、キャッシュレスでの取引が増えていることだ。観光地の小さな商店では現金のみの取り扱いの店も多いが、キャッシュレスの導入の波が、川越でも起こっているのだ。非接触で短時間での支払いができるキャッシュレスは、現金での支払いより、接触感染のリスクを軽減できる。

昔ながらの情緒を残す小江戸川越は、新たな生活様式に順応している。

(大竹、榊原)

コロナでも意気消沈してはいけない

私たちは小江戸川越の主要観光地の一つである、川越総鎮守、氷川神社で話を聞いてみることにした。秋の川越祭も中止になり、毎年楽しみにしている人々にとっては残念なこととなった。同社の権禰宜の佐藤さんと、候補の巫女の板橋さんによれば、氷川神社のいわれは以下のようなになる。

もともと同神社は、素戔鳴尊（スサノオノミコト）と奇稻田姫（クシナダヒメ）、脚摩乳命（アシナヅチノミコト）と手摩乳命（テナヅチノミコト）の夫婦神と出雲大社の縁結びの神としても知られる大己貴神（オオナムチ 別名オオクニヌシノカミ）を祀っている。またこの五柱の神々は家族であることから、特に夫婦円満・家庭円満の神として崇拜されているという。

「越えていこう、川越」というキャッチフレーズのもと、コロナを乗り切ろうという活動が行われているが、この川越氷川神社の宮司さんは観光協会の副会長ということもあり、積極的にこのキャンペーンに参加している。

佐藤さんが語る。

「コロナの時期があって、皆さんが意気消沈しているようではいけない、伝統あるこの川越の町が、今やっと観光として、大きく羽ばたこうとしている矢先なので、いろんな困難はあるけれども、それを乗り越えて克服して発展を遂げたいという願いを込めて参加した」

また毎年出していた山車を今年は出すことができなかったため、せめて気持ちだけでもと観光課と話し合い、祭りの賑わいとまではいかないが、参拝者だけでなく地元の方など皆の気持ちが一つに集まっているということを表現できるよう、山車の写真を張り出したそうだ。

コロナ同様、疫病も昔から発生し、昔の人はいろんな知恵を絞って乗り越えてきた。例えば、7月に八坂神社のお祭りを通じて、疫病退散ということをやって来た。これは神様の強いお力を借りて悪い疫病を追い出すという考えで、神様の力を頼りに乗り越えてきたのだという。

今は科学が発展していることが目に見える時代だが、まだまだ人間の力だけでは乗り越えられない部分がある。その証拠がコロナだと思う。

このことを受けて佐藤さんは「越えていこう、川越」というキャッチフレーズの中に、

困難を克服しようということが第一義ですけども、その背後に神様の守り、導きがあるという事をお伝えしたい」と語った。

インターネット御祈願

次に、川越氷川神社のコロナ対策は何をしているのか話をうかがった。対策としては「社殿に入る人数を少なくする」「社殿の扉を開けて換気を行うこと」「社務所のカウンターの消毒」などをしているということだった。

また、「コロナということもあり、外出自体控えている人もいるため、その方たちにも参拝ができるようにとインターネットを使い、申し込みを行ってもらうこと」で、神社に行つて参列することなく御祈願を行え、御祈願をしたお札やお守りなどを後日に受け取るという形をとることを始めた。

七五三からこの形を始め、これを行うことで少しでも密の状態を避けられればということだ。境内では、手水舎の柄杓を撤去していて、手だけお清めできるようにし、手水舎、社務所のカウンターにアルコール消毒の設置、手洗い、うがい・マスク着用の徹底を行っている。

神社は屋外に近い環境ということもあり、社殿の換気や蜜を避けること、アルコール消毒といった基本的な対策が続けていくが、必要以上のことはせず、参拝客がちがちにならないように、許容の範囲内で対策をしているとのことだった。

昨年同様に元朝祭

今年は残念にも「川越祭」が中止になった。これからの行事についてはどうなるのだろうか。

川越氷川神社では、お正月から鏡開きの1月11日までの間に『元朝祭』を行っている。この『元朝祭』は、年始にお参りし、この1年無事に過せるようにというお祓いをしており、来年の正月も例年通りに行う予定だという。

「そもそもお祓いの目的が、無事に1年過せるようにということのため、コロナだからといってやめるのではなく、「この状態だからそやらなければいけない」「そう佐藤さんは話した。

対策としては、社殿に入る人数を制限してこれからコロナに加えてインフルエンザも出てくることもあり、なるべく密を避けるようにし、社殿を開けて空気の換気を行いながら実施していくとのことだった。また、「社殿に入る人数を制限してしまつたため、一回の人数を少なくする分、回数を増やすことで来てくださった皆様のお祓いをさせていたきたい」（佐藤さん）。

「こういふときこそ神頼み」

今後もコロナウイルスによる常識や生活の変化が根強く残るだろう。

コロナに関わらず、疫病全般に関しては科学や医学は進んでいても人間の力が及ばないこともあると考えているという。神様のお導き、守りがあつてこそ自分たちで、それを忘れないこと、何かある、問題があるからと言つて引つ込む、縮まるのではなく、だからこそ神様をお祀りし、神様にお願ひするだけのではなく、日ごろから神様のお目にかなう、褒められるような態度で生活したいそうだ。神社側、佐藤さんとしては「コロナはいずれ終息していくかと思いますが、また何か新たな問題が出てきたとしても一貫して私共は町の平穏と国の平穏をずっとお祈りし続けるという事は変わらない」と語つた。

コロナウイルスによる猛威はまだ続くだろうが、そこには私たち人間だけの力では解決できないことが数多くあるだろう。その一つに直面した私たちは今後、どう行動するかはわからないがその視野を広げてみれば、数多くの対策と柔軟な態度で平穏を祈る人たちの姿が見えるはずだ。

夫婦田満・家庭田満を祈るだけでなく、こういう時にも「神頼み」してみるのはいかがだろう。

（清水、松尾）

小学校から変わらない博物館

肌寒くなってきた10月21日。取材のため川越市立博物館を訪れていた。

川越市立博物館は、蔵造りをイメージした切り妻の瓦屋根に、漆喰風の白壁姿が印象的な建物で、江戸から現代までの川越の長い歴史を知ることができる。

私がここを初めて訪れたのは小学校3年生の遠足の時だった。博物館の池の鯉は相変わらず悠々と泳ぎ、懐かしさを感じさせてくれた。

実際に館内に入ると、検温スタッフ、消毒を促すスタッフのほか、記録表の記載を促すスタッフなど、スタッフらの立ち位置がはつきりと確定され、無駄のない動きに驚いた。

今回は、博物館の教育普及担当の高田さんに、コロナウイルス感染拡大をうけ、以前までと、今とどのように変化したかについて聞いてみた。

まず、コロナの影響で閉館していた期間、どのような開館への準備をしていたかを確かめてみた。

「博物館と分館である本丸御殿はともに、3月1日の日曜日から6月18日の木曜日までの約3か月間閉館していました。その間、政府や市、保健所の指示のほか、博物館は日本博物館協会のガイドラインのもと徐々に方針を定めていき、本丸御殿は博物館と合わせ、その後の方針を決めていく方法をとりました。施設の目的に合わせ入館について検討していったのです。」

その後は、段階を通じて周りの状況を考えながら、最終的には政府や埼玉県の方と意見交換をし、博物館、本丸御殿は6月19日金曜日に再開という運びになったという。

「方向が決まってからは、それに向けた準備が主となり、人員の配置や手指の消毒の呼びかけ、マスク着用の提唱ほか、入館時に記入してもらう記録表の作成などを検討しつつ、実際にも実施してきました。入館時には、入館される方に対して、最初に入館に関する案内を見て、検温スタッフが入館の条件に関する説明をし、手指の消毒を行っていただき、記録表を記入し受付に行くといった流れになっています」

現在も正式な手順に乗っ取り続けている。
「本丸御殿でも、博物館同様に受付で検温。新たな人員を配置せず、現在いる職員がローテーションで受け持っています」

今では日常化してきた検温だが、こうして人の手で丁寧にするのは大変な作業で、どうしても、検温する際に来館者とスタッフの距離が近くなってしまうがちだ。

お互いのソーシャルディスタンスを守りながらも、検温できるようにすると良いなと感じた。

また観光客の客足の変化についても教えてもらった。

「外国人観光客は、前年で本丸御殿のほうで10%、博物館が0.02%でした。ただし、この統計はお客様全員の国籍の確認を行っているものではなく、参考程度のもです。全体の客足が戻り始めたのは、敬老の日ごろでした。この時、下駄箱の許容数である80人を超えてしまったため、午後1時から3時まで、初めて入場規制をしました。

現在は、川越の観光地化ということで、GoToトラベル解禁後は、東京周辺の人々が多く訪れているようです」

予約による見学、再開後の変化

再開後、入館者はどのくらい増減したのだろうか。

「利用としては、一般利用、団体利用、学校利用があり、博物館のいたい3割から4割が学校利用です。前年までは博学提携内のプログラムとしての博物館利用だったが、時間がある学校の場合は本丸御殿の散策等も行っていましたが、今年はコロナの影響で、本丸御殿ではグループ見学が可能な学校のみを受け入れました。主に修学旅行の練習として、中学校の利用が多いです。ほかに、修学旅行が中止になった小学6年生の修学旅行の代替イベントとしての利用も増えています。木曜日と金曜日に限定3校、人数制限は下駄箱の許容人数の80人までとし、要予約で受け入れています。」

再開後は、来館者にも変化があったそうだ。

「夏休み頃からやってきたのは、若者と家族連れでした。そういう方々は、これまではあまり目に見えない人達でした」

私も、この話を聞いて少し驚いた。本丸御殿も博物館も駅から離れたところにあるので、

散歩がてらやって来た近所のお年寄りの方や、わざわざ日本文化を求めてやってきた外国人観光客の方のほうが多いのかと思っていたからだ。

すると、高田さんは「今までいったことはなかったけれど、開館しているところが少なかったんで、ここまで足を運んでくれたのかなと思いました」と笑っていた。

以前、小学生のとき見学したところがどうなっているのか、訪ねてくる人も多いそうだ。「自分が小さかった時に、何十年ぶりに来たという人もいました」

今後の本丸御殿、博物館は、どんなふうになっていくだろうか。聞いてみると。

「たぶんこの状況で、ウィズコロナや、アフターコロナといったようにいろいろ言われています。しかし、完全に元に戻るといふ事は考えられないと思っています。今のように、対応したところで、具体的な経費や予算を確保せずに、また元にまたはそれ以上にお客様に来てもらえるかというのは難しく、病気の流行具合で全く読めないところがあります。こちらも事業として、できるだけ多くの人に来てほしいと思い、やって来ましたが、どうなっていくのでしょうか」

そう語っていた。

若い世代がやってくる博物館と本丸御殿

さらに本丸御殿についても聞いてみた。

「お茶会をやったり、藁ぶき小屋での体験をしたり、鎧を着たりすることは、博物館でやるのとは全く違います。本丸御殿には戦国さながらの臨場感があり、雰囲気があるのでせつかくこの場があるのに今は、それすらもできていない状況です。お茶会だとお点前のときなどに密になってしまったり、鎧の着装は密着してしまいます。鎧は古美術品のため消毒をすることができないという点から今後もしばらくは難しいと思っています。しかし、いま何ができるのかを見極めて、できる範囲のことをやっていくつもりです。自分たち職員ができることをやり、それがある程度できたら、外部から講師をお呼びして博物館でシンポジウムのようなこともやりたいと思っています」

今回話を聞いて感じたことは、コロナ以前同様に、人出は戻りつつあるが前と後とでは客層や人数は大きく変化したといえる。本丸御殿では、これまで多く訪れていた外国人観光客の姿を見かけることは減り、今まで見かけることのなかった若い世代が増えたという。取材した日も、少し秋風が冷たく平日ではあったが、鐘つき通日も主に若者たちで賑わいをみせ、少しずつ以前と同じような活気を取り戻しているように感じた。

第五章 今後の川越の課題は

川越は今、変わりつつある。以前とは違い、主な観光客だった外国人は姿を消し、日本人の観光客が増加している。

実際、3年前に川越を訪れたときに、町中で聞こえていた外国語は聞こえなくなった。替わって出てきたのは、食べ歩きインスタ映えスポットだ。インスタには、食べ歩きスポットがあふれている。そこが新たな観光地となり始めている。

観光客だけではない。昔ながらの商店だけではなく、カフェなどの現代的な飲食店も増えた。現金払いが主だった個人商店はキャッシュレス化が進んだ。

あの川越氷川神社は、実際に参拝をしなくても、インターネットで御祈願ができるようになりモートでの取り組みを始めた。

個人商店、神社、博物館、市役所を問わず、形は違うが、各々が感染症対策を行い、小越戸川越を守ろうとしているのだ。

だが、いくら感染症対策をしてもリスクがまったく無くなるわけではささない。観光する私たち個人の感染症対策へのモラルが問われている。新しい生活様式のみならず、新しい観光様式で、観光客もかわらなければならない。旅の恥はかき捨て、などと言う時代は終わった。

変わりつつある川越。しかし今も変わらない「小江戸川越」。人々の心を引き付けて離さない川越を守っていくのは、ほかならぬ私たちなのだ。

アフターコロナを生き抜き、川越の魅力を次世代に継承していくために、私たちも何か協力していきたいと思っている。

(大竹)

付録 食べておいしかったもの、おすすめの観光

最後に川越の現地取材をする際に行ってみた場所でお勧めしたいところをまとめた。そこで各作品の公認である「いけるアニメ 舞台巡り」というARでキャラクターと風景を撮影できるアプリを使用し、川越を選んだきっかけのひとつでもある「神様はじめました」の舞台として使われた場所を巡った。所謂聖地巡礼だ。ちなみに川越は、私の好きな作品の「劇場版SOARA」という作品でも主人公たちが生まれ育った町でもあるため、私の聖地巡礼にもなった。劇場版SOARAとは2、5次元に存在する架空の芸能事務所としてCDをはじめとして様々なメディアミックス展開を行うツキノ芸能プロダクションという作品の初の実写化作品だ。

川越といえば有名なかねつき通りはこのアニメでもオープニングで使われていたらしい。時の鐘通りはやはり人が多く、有名な店舗も多くあった。



かねつき通りには川越で今インスタグラムをはじめインターネットで有名な恋ソフトを販売する「菓匠右門」という店舗もあった。菓匠右門は昔から有名な恋も販売している店だ。やはりSNSの力は強く、購入していた観光客の姿も多い。恋ソフトが人気になった理由の一つはやはり見た目の可愛さだろう。紫芋由来の紫色をしたソフトクリームの上にもなかで作られたピンク色のハートが乗った様子はとても可愛らしい。味は紫芋、ミルク、ミックスと三種類あり、自分の好きな味を選び、見た目も味も楽しめる。一方いも恋の中身は厚切りされたサツマイモの輪切りと餡で、それらをもちもちとした皮で包んでいる。間違いなく美味しいだろう。作中ではこの店は6話に登場していて実際に主人公

たちが食べ歩きをしていたようだ。食べ歩きをした、つまりほかにも彼女たちが足を運んだ店、食べたものが川越にはまだまだあるということだ。是非確かめながら周辺もみてほしい。



また、有名なお芋チップスを販売する小江戸おさつ庵もかねつき通りに建っていて、商品を買いたい行列が絶えることがなかった。

川越は様々な観光スポットが多く、アニメーションや映画でも取り上げられることが多い、自分の好きな作品ももしかしたら舞台になっているかもしれない。聖地巡礼を自分の好きな作品の世界を肌で感じてみるのもよいだろう。

(榊原)

